

男女共同参画社会づくり

向けての全国会議からの報告

都留市女性プラン推進委員会

今回の会議は、日本全国から数多くの人々が参加し、新宿厚生年金会館の席は満席、盛り上がる熱気の中で開催されました。

会議冒頭の主権者あいさつにおいて、男女共同参画推進本部長である内閣総理大臣小淵恵三さんより、国においての男女共同参画社会実現への取り組みが紹介されました。前回のシリーズで掲載したように本年六月に男女共同参画社会基本法が施行され、法制面での環境は整いました。これを受け、内閣府に男女共同参画社会の形成に向けての推進局を設置し、積極的な展開を図ることが示されました。

開式行事に続き、男女共同参画審議会会長岩男寿美子先生の基調講演が行われ、男女共同参画基本法の審議会での検討内容を細かく説明していただきました。この講演の中で、国際的な評価から、まだまだ日本における男女共同参画社会への認識が遅れているとの発言がありました。

講演に引き続き行われた、シンポジウムは日本における男女共同参画社会活動の第一線で活躍している東京家政大学教授樋口恵子さん、東京大学教授大沢真理さん、北九州市立女性センター所長三隅佳子さん、日本経済新聞社生活家庭部編集委員鹿嶋敬さん、国家公務員共済組合連合会理事長古橋源六郎さんにより活発な議論がなされました。現状の認識の中で、更に男女共同参画社会実現に向けて各自の積極的な取り組みの重要性が示唆され、会場からも共感する声が聞かれました。

帰りのバスでの反省会では、都留市から参加した四十名それぞれが感想を話し、全国的な男女共同参画社会の潮流を感じ、大きなパワーを心に刻んだことなど、今後の活動の弾みとなることを確信する発言が数多く聞かれました。

小さな力も集まると大きな力と変化していきます。都留市女性プラン推進委員会では、男女共同参画社会実現に向けての取り組みを進めていきます。市民の皆さんの積極的なご参加をお待ちしています。ご意見、ご要望をお寄せください。

ご意見・ご要望は

総務部政策形成課まで

秋の全国火災予防運動

十一月九日から十五日まで、全国一斉に秋の火災予防運動が行われます。

この運動は、火災が発生しやすい季節を迎えるにあたり、市民一人ひとりの火災予防思想の一層の普及を図り、もって火災の発生を防止し、死傷事故や財産の損失を防ぐことを目的として実施されるものです。

今年の統一標語

「あぶないよ

ひとりぼっちにした

その火」



火の用心 セツのポイント

- 一 家のまわりに燃えやすい物を置かない
- 二 寝たばこやたばこの投げ捨てをしない
- 三 天ぷらを揚げるときは、その場を離れない
- 四 風の強いときは、たき火をしない
- 五 子どもには、マッチやライターで遊ばせない
- 六 電気器具は正しく使い、たこ足配線はしない
- 七 ストープには燃えやすい物を近づけない

一一九番の日

十一月九日は「一一九番」の日。消防活動や救急救助活動は、一刻を争う時間との勝負です。一一九番の通報は、落ちついて正確に伝えましょう。

例えば、「一一九番」に火災発生を通報する時、場所や状況を正しく伝えられなければ、消防車両の現場への到着が遅れてしまい、被害が大きくなってしまったという痛ましい例も少なくありません。

皆さんの正しい通報が、迅速・適確な消防活動につながります。

「私はあわてないで通報できるから大丈夫」とか「火事や事故は起こさないから必要ない」などという過信は禁物です。災害はいつ、どんな形で起きるかわかりません。

携帯電話からの

一一九番

最近携帯電話の普及に伴い携帯電話からの一一九番通報が多くなりました。しかし、場所によって、必ずしも近くの消防署につながるとは限りません。

都留市内を含めた郡内各地はすべて富士五湖消防本部につながります。そのため場所や電波の状態により、通報から出動までの時間が遅くなる場合もあります。

このような時には近くの公衆電話または一般電話を使って通報してください。



通報時には次のことを

確実に伝えましょう。

- 一 どここの市町村から、かけているか
- 二 「火事」か「救急」かを告げる
- 三 現在の状況 (または何が燃えているか)
- 四 詳しい場所、付近の目標物
- 五 住所、氏名
電話番号(携帯番号)

救急振興にご協力を

現在、(財)救急振興財団では救急業務が国民生活に深くかかわっていることから広く国民から寄付を募り、それを基金とし、その運用益を活用して救急振興に資する事業を行っています。その基金を募るため、救急基金箱を設置しました。市民の皆さんのご協力をお願いします。

基金箱設置場所

- 都留市役所
- 都留市立病院
- 都留市消防署

